

アジアの民族服に関する被服造形学的研究

——文化学園服飾博物館所蔵品の分析調査(3)——

荒井 やよい* 田村 照子**

A Study on Clothing Construction of Ethnic Costumes in Asia

——An Analysis of the Collection of Bunka Gakuen Costume Museum (3)——

Yayoi Arai and Teruko Tamura

要 旨 文化学園服飾博物館所蔵のアジアの民族服について実物資料の継続調査を行った。苗族の女性用下衣、プリーツスカート（百褶裙）のプリーツの構成、装飾、縫製等に注目し11点を選んだ。個人所有の3点と合わせ①中国8点、②ラオス1点、③タイ2点、④ベトナム3点の各資料の形状、プリーツの構成、縫製方法、装飾技法について調査した。素材は綿または麻で藍染、ろうけつ染され、布幅は28 cm から80 cm であった。今回の調査資料で布幅を最大限生かし縦方向に7枚から16枚接いだ4点は、布の耳に平行にプリーツが寄せられ、横方向に2段から4段接いだ9点は、耳に垂直にプリーツが寄せられる。1段目のプリーツ1本に2段目は2本のプリーツをだかせ腰囲でのヒダ数がウエストの2倍になる。この構成は4カ国共に見られ、着装での審美性、機能性への配慮が確認できた。接ぎのないものは1点で何れも裁断での無駄はない。全て手縫い6点。手縫い及びミシン縫い8点。装飾のろうけつ染めとプリーツ加工は調査資料の代表的特徴である。刺繍は8点に、髷飾りのスモッキングも8点に見られ、アップリケ、パイピング等の装飾で色が加えられる。調査により苗族の知恵と工夫が確認できた。

キーワード 民族服 (Ethnic Costumes) 苗族 (The Miao) プリーツスカート (Pleated Skirt)

I はじめに

中国の貴州省、雲南省、広西からベトナム、ラオス、タイの山間部に広範囲に苗族の居住地が分布する。少数の部族がそれぞれ独特の織り、染め、刺繍、文様を持つ。畑仕事や家事の合間に麻を植え、糸を紡ぎ、機を織り、蜜蝋で模様を描き、藍の染料を作り、染める、全て手作りで民族衣装を作る。苗族の女性にとって衣服作りはとても重要な仕事で、5~6才の頃より母親から手ほどきを受け刺繍をする。しか

し、最近では学校制度が導入されその時間が減少。更に、西欧化、生活様式の変化により各地の伝統ある民族服は日常から姿を消し、祖母から母、母から娘への伝統技術の継承が消滅傾向にある。鳥丸貞恵氏他は、1985年より18年間かけ、染色・整理、加工技術、技法を中心とした実地調査、研究をまとめた^{1)~3)}。伊藤五子氏、柴村恵子氏他は中国貴州省少数民族の服飾研究^{4)~6)}を長年にわたり実地調査し、生活文化、衣文化の研究を行なった。長井満里子氏の中国少数民族服飾の制作研究⁷⁾⁸⁾では復元制作研究が見られる。本研究は前報に引き続き、文化学園服飾博物館所蔵品の分析調査を行なうものである。本報では、中国、ラオス、タイ、ベトナムのアジア4カ国より苗族の民族服、女

* 本学教授 被服構成学

** 本学教授 被服衛生学

性用下衣，プリーツスカート（百摺裙）を11点選び，個人所有のプリーツスカート3点を加え計14点について，素材，形状，プリーツの構成，縫製方法，装飾技法などについて被服造形学の視点からの考察を試みた。対象とした民族服のプリーツスカート①中国8点，②ラオス1点，③タイ2点，④ベトナム3点の計14点について検討した。

Ⅱ 研究方法

1 調査対象

調査した実物資料は，文化学園服飾博物館収蔵品データベースを用いてアジアの民族服の中より苗族，女性用下衣，プリーツスカート11点を選び，それに個人所有の3点を加えた。資料1から8：中国，苗族・下衣・スカート，資料9：ラオス，白メオ族・下衣・スカート，資料10，11：タイ，メオ族・下衣・スカート，資料12，13，14：ベトナム，モン族・下衣・スカートの14点である。調査は素材，形状，プリーツの構成，縫製方法，装飾技法について行った。

(1) 素材

資料の織組織，糸密度（たて×よこ本/cm）はマイクロSCOPEにて撮影した拡大写真より観察，計測した。厚さ（mm）はスプリングマイクロメーターを使用した。重量は衣服の全体重量を計測，素材（材質）については博物館作成のデータを使用した。

(2) 形状，プリーツ構成

各資料の形態，構成，特徴を観察した後，その構成パターンの分析を行った。資料全体の外形を把握するため，テープメジャーを使用し，スカート丈，ベルト幅，ウエスト幅，裾幅，ベルト長，紐の長さの6箇所を計測した。次に資料の構成線，プリーツの数，形状，構成を詳細に計測記録し，その数値で構成図を作製した。プリーツ止め糸で固定されている部分等は推測値を算出した。布目方向は耳を確認し決定した。

(3) 縫製方法，装飾技法

資料の中に使用されている全ての縫製部分並びに装飾部分を対象とし，縫製方法，装飾技法を観察，調査し記録をとった。

(4) ボディー着装による観察

婦人用トルソー型ヌードボディー（B82，W58，H88）を使用し各資料を着装させ，前面，側面，後面からシルエット，構成バランス等を観察した。

Ⅲ 結果及び考察

1 素材

資料1～14までの資料の諸元を表1に示す。

(1) 資料1 中国の下衣スカート（図1）は麻100%の平織である。藍染で光沢加工が施されている。貴州省東南地区に見られ，藍染布を豆汁浸し，ノグルミ液浸し，水牛皮液浸し，たたき仕上げ等を経てピカピカに仕上げる。この加工により張りが加わりヒダが寄せやすく細かな，エッジの鋭いヒダが得られ，保持性も良い。布幅は41 cm。衣服重量317.8 g 資料の中では軽い。一般的なジーパンが522 g～654 g，ポリエステル製のプリーツスカート269 g程である。

(2) 資料2 中国の下衣スカート（図2）は綿100%の平織である。黒光りの光沢加工が施され硬くプリーツが立っている。コーティングされた布はプリーツのセット性が良く，適度な張りは刺繍を刺し易くする。布幅は37 cm，衣服重量は637.8 gでジーパン程度である。ベルトは共布で硬く着物の帯の感じに着装される。

(3) 資料3 中国の下衣スカート（図3）は麻100%平織である。麻特有の布地の張りに光沢加工による硬さが加わりプリーツが寄せ易く，セット性も良い。細かなヒダが立っている。プリーツ加工で素材は嵩高になり体に密着せず涼しい。布幅は38 cm，衣服重量478.3 g。ベルト布は体になじみ易い柔らかい綿が使用されている。

(4) 資料4 中国の下衣スカート（図4）はポ

表1 資料の諸元

資料	国	スカート部位	素材 (%)	織組織	糸密度 (本/cm) たて×よこ	厚さ (mm)	布幅 (cm)	重量 (g)
1	中国	ベルト スカート	麻100	平織	20×17	0.42	41	317.8
2	中国	ベルト	綿100	平織	15×15			637.8
		スカート	綿100	平織	20×20	0.52	37	
3	中国	ベルト	綿100	平織	22×25			478.3
		スカート	麻100	平織	20×19	0.59	38	
4	中国	ベルト	綿100	平織	25×23	0.42		558.8
		スカート	ポリエステル100	紋織	60×25	0.23	90	
		裾装飾布		平織	35×25	0.56		
5	中国	胴布	綿100	平織	13×10	1.04	37	992.7
		スカート1段目	綿100	平織	15×15	0.82		
		スカート3段目	綿100	平織	13×11	0.91		
6	中国	ベルト スカート1段目 2段目左右	綿100	綾織	30×20	0.56		634.8
		スカート2段目中	綿100	平織	20×20	0.57		
		スカート裾飾り布	綿100	平織	30×30	0.3		
7	中国	ベルト	綿100	平織			0.38	1156.3
		スカート1段目	綿100	平織	14×12	0.68		
		スカート2段目	綿100	平織	10×10	0.91	30	
		スカート3段目	綿100	平織	14×10	1.1		
8	中国	スカート1段目	綿100	平織	18×15	0.68		1139.3
		スカート2段目	綿100	平織	20×15	0.68		
		スカート3段目	綿100	平織	20×30	0.36		
		スカート4段目	麻100	平織	10×10	0.68		
9	ラオス	ベルト スカート1,2,3段目	綿100	平織	20×15	0.54		301.1
		ベルト	綿100	平織	25×20	0.48		
10	タイ	スカート1段目	綿100	平織	15×15	0.7		1213.3
		スカート2段目	綿100	平織	10×10	0.72	28	
		スカート3段目左右	綿100	平織	10×15	0.97		
		スカート3段目中	綿100	平織	10×10	1.15		
11	タイ	ベルト スカート1段目	綿100	平織	20×20	0.46		1197.7
		スカート2段目	綿100	平織	10×10	0.88	32	
		スカート3段目	綿100	平織	10×10	0.89		
		スカート裾縁取り	綿100	平織	25×25			
12	ベトナム	ベルト	綿100	平織	15×10			1362.3
		スカート1段目	麻100	平織	13×13	0.71		
		スカート2段目	麻100	平織	13×11	0.74	32	
		スカート3段目	麻100	平織	25×30	0.99		
13	ベトナム	スカート4段目	綿100	平織	40×18	0.6		314.8
		スカート	綿100	平織	15×15	0.76		
14	ベトナム	スカート1段目	綿100	平織	15×15	0.85		915.7
		スカート2段目	綿100	平織	15×15	0.88	34	
		スカート3段目	綿100	朱子織	25×25	0.65		

リエステル100%の紋織である。熱可塑性のある素材はプリーツのセット性、保持性が良い。細かい規則的なヒダが寄せられている。筆者が北京で入手したものである。プリーツ縫い縮め糸の針穴が3.5cmおきに見られる。布幅90cm、衣服重量558.8gである。

(5) 資料5 中国の下衣スカート (図5) は綿100%の3種の布を使用している。胴布は生成りで厚地、スカートは3段構成で1段と3段目は少し濃いめのろうけつ染、2段目は明るい色味のろうけつ染、濃淡のろうけつ染をバランス良く配置している。衣服重量は992.7gでやや重い。

(6) 資料6 中国の下衣スカート (図6) は綿100%の3種の布を使用している。ベルトと1

段目の布は綾織の共布、2段目と裾装飾布は平織。1段目、2段目は藍染、裾装飾布はろうけつ染が施されている。2段目の細かなプリーツは918本。衣服重量は634.8gでジーパン程の重さである。

(7) 資料7 中国の下衣スカート (図7) は綿100%の4種の布を使用、1段目は白地、2段目はろうけつ染、3段目は藍染が施され、布地は下ほど厚くなっている。更に裾には刺繍を加え、チュールレースを重ねている。重量は1156.3gで重い。

(8) 資料8 中国の下衣スカート (図8) は4段目が麻100%、その他は綿100%で1段目は生成り。2段目はろうけつ染、3段目は赤の綿布、4段目は藍染が施されている。装飾テープ類が20本も止められ、重量は1139.3gで重い。

(9) 資料9 ラオスの下衣スカート (図9) は綿100%で生成り、製作途中の資料でプリーツ止め糸が付いたままである。衣服重量は今回の調査資料中、一番軽く301.1gであった。

(10) 資料10 タイの下衣スカート (図10) は綿100%の5種の布を使用。3段接ぎで、下ほど厚地になっている。2段目はろうけつ染3段目は藍染が施されている。プリーツ止め糸で縫い縮められた状態である。衣服重量は1213.3gでずっしり重い。

(11) 資料11 タイの下衣スカート (図11) は綿100%の4種の布を使用、下ほど厚地になっている。3段目には刺繍、縁取り、装飾テープが加えられる。衣服重量は1197.7gで重い。

(12) 資料12 ベトナムの下衣スカート (図12) 1, 2, 3段目は麻100%、4段目は綿100%で、1, 3段目は藍染、2段目はろうけつ染が施され、重量は1362.3gでずっしり重い。

(13) 資料13 ベトナムの下衣スカート (図13) は綿100%でろうけつ染めが施され、その柄にそって7種の装飾布を配置し止める。重量314.8gで軽い。女児用である。

(14) 資料14 ベトナムの下衣スカート (図14)。は綿100%の3種の布を使用。1段目は藍染、2段目はろうけつ染が施されている。ろ

うけつ染の柄に添って6種の装飾布を配置し止める。

刺繍が施される素材は、刺繍が刺し易く刺し上がりも安定するように、また刺繍部分を再利用する等の点からも厚地でしっかりした布地が使用される。苗族の民族服は自然から得られる繊維を素材とし織り、藍で染め、加工し、製作する。全て手仕事である。

2 形状、プリーツ構成、縫製方法、装飾技法

(1) 資料1 中国；下衣スカート（図1）

[形状、プリーツ構成]

縦41 cm、横41 cmの布の耳を合わせ、縦方向に11枚接ぎ合わせて、耳に平行にヒダを寄せた総プリーツの巻きスカートである。スカート丈39 cm、ベルト幅10 cm、総丈49

cm、裾幅441 cmはプリーツセットにより176 cm程になる。プリーツ数はウエストで723本、細かく鋭角に立ったクリスタルプリーツ、裾上6 cmから大きなランダムプリーツに変化させる。ヒダ数は半数以下の326本となる。1枚の布上に2種のプリーツが構成されている。

[縫製方法、装飾技法]

縫製は全て手縫いである。製作手順は①スカート布11枚の裾を0.3 cm幅で3つ折りにしてまつ。②耳を中表に合わせ0.3 cmの縫い代幅で11枚を縫い合わせつなぐ。③プリーツの加工台に布を裏にして置き、水を打って湿らせる。布端を加工台に止め、中央から左右にヒダをつまむ。ヒダがとれたら端を止め、布が動かないよう棒をのせ、ヒダを固定する重石をのせて1晩置く。ヒダ山を針で縫いヒダを固定する。④ベルト布をヒダの下に置き縫い付け

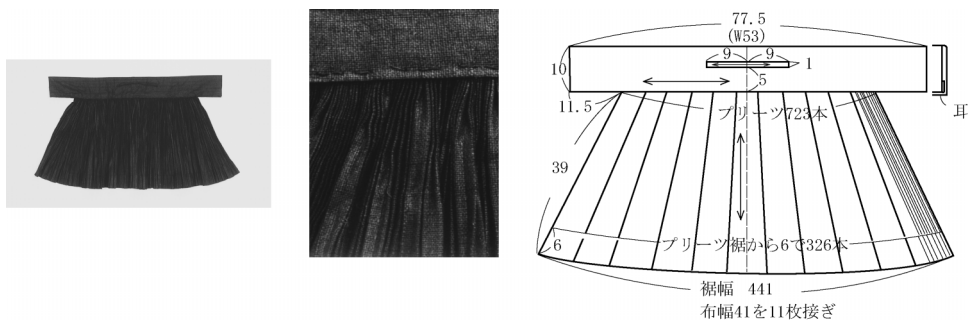


図1 資料1 中国（文化学園服飾博物館所蔵）

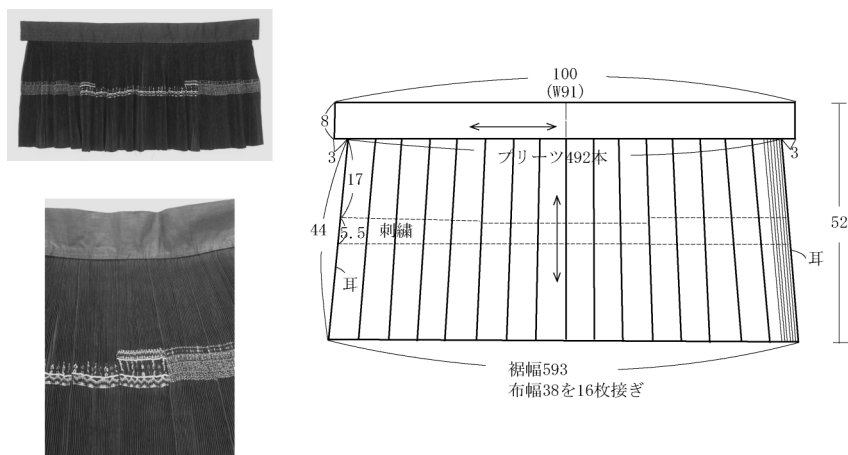


表2 資料の概要

資料	国	接ぎ 方向	接ぎ 数	布幅 (cm)	ベルト幅 スカート丈	ベルト長 ウエスト	裾幅 (cm)	プリーツ		重量 (g)	縫製	染め 加工	装飾	
								数(本)	構成・形状					
1	中国	縦	11	41	10 L39	77.5 W53	441	W 6 裾上	723 326	耳に平行にクリスタルプリーツ、裾ランダムプリーツ1枚の布上に2種のヒダ	317.8	全て手縫い	光沢加工	2種プリーツ
2	中国	縦	16	38	8 L44	100 W91	593		492	耳に平行に規則的に細かいクリスタルプリーツ	637.8	全て手縫い	光沢加工	刺繍
3	中国	縦	13	38	7 L43	83 W79	483		566	耳に平行に規則的で細かく立ったクリスタルプリーツ	478.3	全て手縫い	光沢加工	裾共布テーブ
4	中国	縦	7	90	18 L56	88 W85	625		572	耳に平行に規則的で細かく立ったクリスタルプリーツ	558.8			裾装飾布
5	中国	横	3	W布37	34 L49	107 W104	438		716	5cm間に36本のヒダが縮められるプリーツのセットはしていない	992.7		ろうけつ染	バイピング アップリケ
6	中国	横	2		6.5 L36	90 W89.5	837	1段 2段上	216 918	2段目上はごく細かなヒダ下はランダムなヒダ	634.8	全て手縫い	ろうけつ染	装飾り、刺繍 装飾布
7	中国	横	3	2段目30	1 L60	105 W104.5	601	1段 2段 3段	188 376 207	2段目ダブルプリーツ	1156.3		ろうけつ染	装飾り、刺繍 装飾テープ類 チュールレース
8	中国	横	4		1.1 L64	90 W85	563	1段 2上 2下 3段 4段	237 475 235 233 233	2段目ダブルプリーツ	1139.3	殆どミシン	ろうけつ染	手・ミシン刺繍 装飾テープ類 アップリケ
9	ラオス	横	3		2 L42	78 W74	(推測537)	1段 2段 3段	122 244 244	2段目ダブルプリーツ プリーツ縫い縮め状態	301.1	全て手縫い		装飾り
10	タイ	横	3	2段目28	3.5 L50	86 W85	(推測717)	1段 2段 3段	125 223 222	2段目ダブルプリーツ プリーツ縫い縮め状態	1213.3		ろうけつ染	装飾り、刺繍 装飾テープ類 アップリケ 縁取り
11	タイ	横	3	2段目32	3 L57	89 W76	614	1段 2段 3段	127 241 238	2段目ダブルプリーツ	1197.7	全て手縫い	ろうけつ染	装飾り、刺繍 装飾テープ類 縁取り
12	ベトナム	横	4	2段目32	1.5 L66	134.5 W126	541.5	1段 2段 3段	126 253 252	2段目ダブルプリーツ	1362.3	殆どミシン	ろうけつ染	刺繍 バイピング アップリケ
13	ベトナム	横	1		4.5 L35	90 W58	280		158	ウエストラインにヒダを寄せる プリーツのセットはしていない	314.8		ろうけつ染	装飾り 装飾布7種 アップリケ
14	ベトナム	横	3	2段目34	2 L58	109 W77	412	1段 2段 3段	73 116 0	1段目のヒダは広げられ2段目と縫い合 せるプリーツのセットはしていない	915.7		ろうけつ染	装飾り、刺繍 装飾テープ類 アップリケ

る。ベルト布を表に返しまつる。⑤ベルト布後ろ中心のひも付け。

装飾は1枚の布上に構成された2種のプリーツ。細かなエッジの鋭いヒダと裾6cmでヒダを倍大きくしゆるやかな丸みのあるヒダを連続させる。これによりスカートの裾が広がりシルエットにやや華やかさがでる。洗練されたデザイン性を感じる。資料の概要を表2に示す。

(2) 資料2 中国；下衣・スカート (図2)

[形状、プリーツ構成]

縦45cm、横38cmの布の耳を合わせ、縦方向に16枚接ぎ合わせて、耳に平行にヒダを寄せた総プリーツの巻きスカートである。スカート丈44cm、ベルト幅8cm、総丈52cm、裾幅593cmはプリーツをセットすると187cmとなる。プリーツ数はウエストで492本、細かい規則的なヒダは機械加工に見える。

[縫製方法、装飾技法]

縫製は全て手縫い。手順は①スカート布16

枚に刺繍をする。②スカート布16枚を縫い合わせつなぐ。③プリーツ加工④ベルト付けは資料1と同じ。3cm間に5~6針の大きな針目で縫われている。

装飾はHL位置の刺繍。3パターンの柄が左右対称に刺されている。右左前側各4枚は5.5cm幅にランニングステッチで井桁柄を刺す。あまりの緻密さに身震いすら感じる。脇に当たる左右各1枚は人型を刺し、後ろ6枚は脇と同じ柄の1部分が省かれたものである。着装で前後中心にエプロン型の腰飾りを着けるため、隠れる部分に省略が見られる。この緻密で繊細な刺繍はプリーツを寄せる事でたまたみ隠され、ヒダを広げないと、その妻さは確認出来ない。装飾の一部を図15に示す。

(3) 資料3 中国；下衣スカート (図3)

[形状、プリーツ構成]

縦45cm、横41cmの布の耳を合わせ、縦方向に13枚接ぎ合わせた後、裾に4cm幅の共布テーブを縫い止め、耳に平行にヒダを寄せた

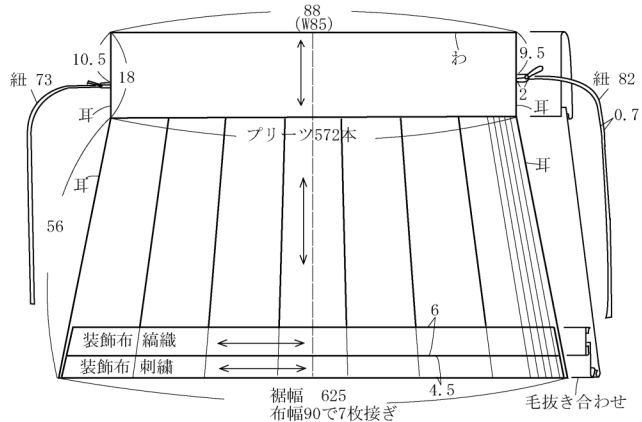
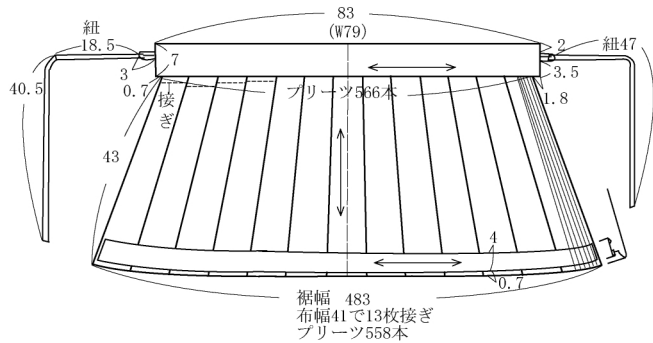
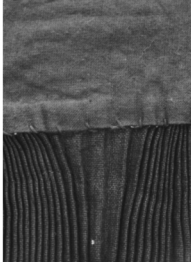


図4 資料4 中国(筆者所有)

総プリーツの巻きスカートである。スカート丈43 cm, ベルト幅7 cm, 総丈50 cm, 裾幅483 cm。プリーツ数はウエストで566本, 細かい規則的なクリスタルプリーツの形状にセットされ現在の機械加工と変わらない完成度である。

[縫製方法, 装飾技法]

縫製は全て手縫い。手順は①スカート布左4枚の丈の不足分を接ぎ足した後, 耳を中表に合わせ13枚縫い合わせつなく。②裾に共布テープを縫い付ける。③プリーツ加工④ベルト付けは資料1とほぼ同じ。⑤ベルトの左右に布ループを縫い付け, ループに紐を結び付ける。

装飾は規則正しく寄せられたプリーツと裾飾り布である。共布での裾飾り布は目立たないが

品の良いデザインである。裾飾り布を付ける事で地厚になった裾のプリーツはその量感で広がり, 同時に布目の方向特性から, その張りがAラインを保つ。

(4) 資料4 中国; 下衣・スカート (図4)

[形状, プリーツ構成]

縦56 cm, 横80 cmの布の耳を合わせ, 縦方向に7枚接ぎ合わせた後, 裾に柄布2種の飾り布テープを縫い止め, 耳に平行にヒダを寄せた総プリーツの巻きスカートである。スカート丈56 cm, ベルト幅18 cm, 総丈74 cm, 裾幅625 cmはプリーツセットにより303 cm程になる。プリーツ数はウエストで572本, 細かい間隔で立ち, 鋭角の規則的なプリーツの形状

にセットされている。3.5 cm 間隔でプリーツ止め縫いの針あとが残り、光線により横縞に見える。

[縫製方法, 装飾技法]

縫製は2種の裾布付けと紐作りがミシン縫い。他は手縫い。手順は①耳を中表に合わせ7枚縫い合わせつなぐ。以下の②～⑤は資料3と同じ。

装飾は裾の飾り布、縞柄織、刺繍布の2種。裾は厚みと張りが増すことでプリーツは丸みを帯び、布目の方向特性により広がる。着装ではマーメイドラインになる。

(5) 資料5 中国；下衣・スカート (図5)

[形状, プリーツ構成]

胴布 34 cm 幅。スカート 26 cm, 12 cm, 11 cm 幅の布を横に3段縫い合わせたティアードの巻きスカート。スカート丈 49 cm, 胴布幅 34 cm, 総丈 83 cm, 裾幅 438 cm はプリーツが寄せられ 104 cm に縮められる。プリーツ数はウエストで716本, 細かい間隔で縫い縮められているが, プリーツはセットせずソフトプリーツとなっている。

[縫製方法, 装飾技法]

装飾のパイピングテープはミシンステッチ止め。他は手縫い。手順は①スカート1段目9箇所と3段目4箇所に紺と赤の飾りテープを

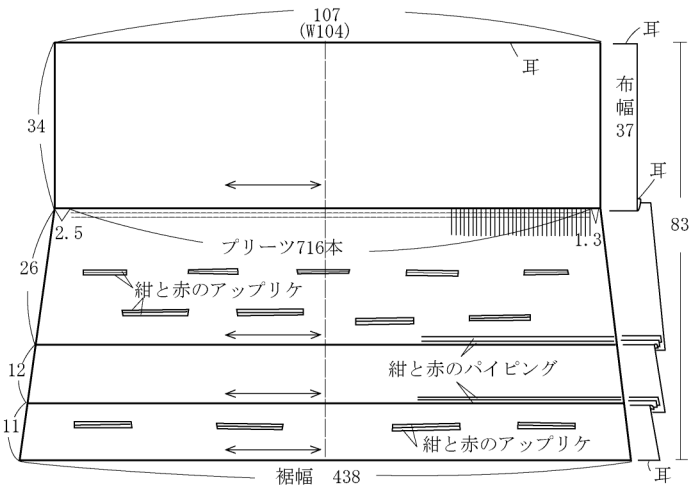
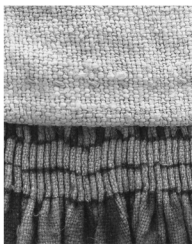
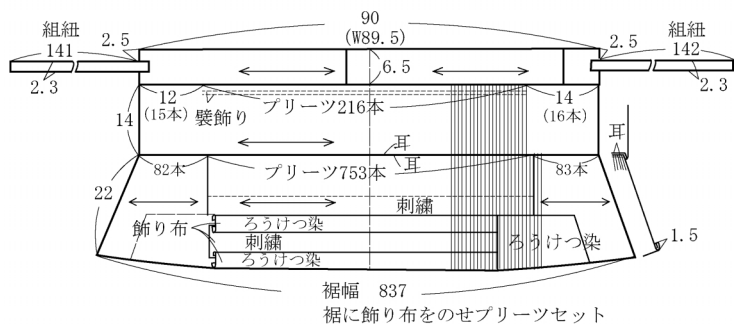
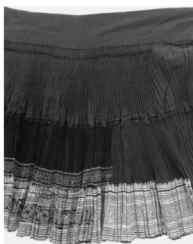


図5 資料5 中国 (文化学園服飾博物館所蔵)



裾幅 837
裾に飾り布をのせプリーツセット

縫い止める。②1段目にプリーツを寄せ太めの糸で3mm弱の針目で2本縫い、その糸を引き縮める。胴布の耳側を1.5折り、スカート1段目のプリーツを寄せた側と中表に合わせヒダ2本分を返す、本返し縫いで丁寧に縫い合わせている。胴布の両側の縫い代を三つ折りぐけで止める。③1段目と2段目の裾側にパイピングテープを2本のせミシン止め。スカート布2段目に3段目をのせミシン止め。1段目に2段目をのせミシン止め。④スカート左右の縫い代を三つ折りぐけ。

(6) 資料6 中国；下衣・スカート (図6)
[形状, プリーツ構成]

ベルト6.5cm幅。スカート14cm, 22cm幅を横に2段縫い合わせたティアードの巻きスカート。スカート丈36cm, ベルト幅6.5cm, 総丈42.5cm, 裾幅837cmはプリーツが寄せられ89.5cmに縮められる。プリーツ数はウエストで216本, 2段目上918本, 2段目刺繍部分は753本で3本のプリーツ止めで縫い縮められ固定されている。2段目裾はろうけつ染の薄手の布と刺繍刺しの布がのせられ2層でゆるやかなランダムプリーツを寄せている。スカート丈が短いため量感と華やかさが一層強調される。ベルトに140cmの組紐がつく。複雑な構成線で接ぎ合わされている。

[縫製方法, 装飾技法]

全て手縫い。手順は①1段目のプリーツ寄せ。襷飾りのスマッキング。左右の縫い代を三つ折りぐけ。②2段目中布と裾飾り布に刺繍。縦方向の接ぎ。裾飾り布縫い合わせ及びスカート布への止め縫い。プリーツ寄せ。③1段目と2段目の接ぎ合わせ。上下共, 耳になっており, ヒダ2本ずつ渡して本返し縫い止めは資料5と同じテクニックである。④ベルト付け。紐付け。

装飾はアウトラインステッチの襷飾り。ヒダの固定と装飾を兼ねる。裾布の刺繍はチェーンステッチとサテンステッチで彩りよく刺されている。2段目中布の刺繍はプリーツ止め糸で硬く固定されモチーフの確認は出来ない。裾布のろうけつ染の柄は渦巻き文(ぜんまい)である。

(7) 資料7 中国；下衣・スカート (図7)
[形状, プリーツ構成]

ベルト1cm幅。スカート17cm, 29cm, 14cm幅の布を横に3段縫い合わせたティアードの巻きスカート。スカート丈60cm, ベルト幅1cm, 総丈61cm, 裾幅601cmはプリーツが寄せられ104.5cmに縮められる。プリーツ数はウエストで188本, 2段目376本, 3段目207本で, 1段目のプリーツ1本に2段目は2本のプリーツをだかせる。裾には刺繍をはさみ, チ

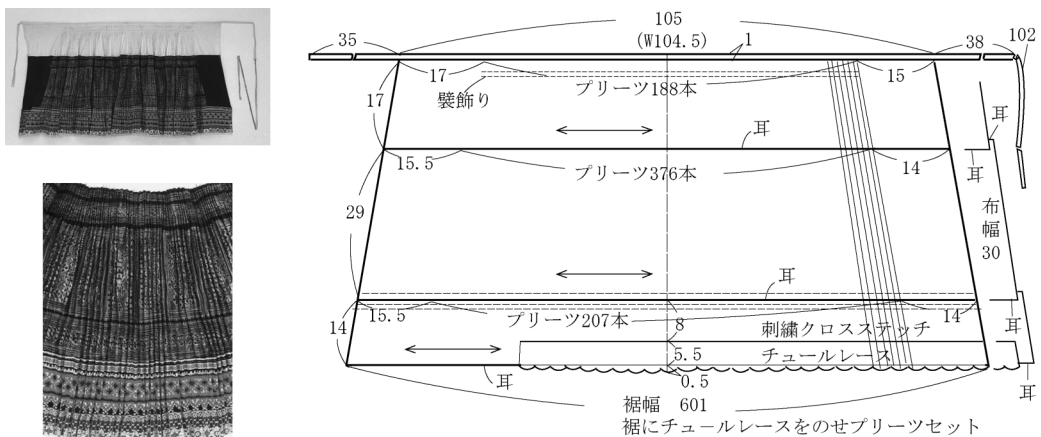


図7 資料7 中国 (文化学園服飾博物館所蔵)

チュールレース他3種のテープがのせられ、華やかである。

[縫製方法, 装飾技法]

スカートの縦接ぎ, 装飾の襷飾りとクロスステッチは手縫い。その他はミシン縫い。スカート2段目のヒダを1つおきに倒し重ねる, または1つおきに縫いはずしながら1段目と縫い合わせてヒダを寄せる。何れかの方法で2段目ダブルプリーツが出来上がっている。ミシン縫いでは前者の方法になる。手縫いはどちらでも可能である。資料7はミシン接ぎなので前者の方法になる。耳を活用し重ねてミシンをかけることで, 薄くスッキリ仕上がる。

装飾は刺繍の上に波型テープ, チロリアンテープ下にチュールレースがミシンで止められる。襷飾りは白地に白糸で刺されている。

(8) 資料8 中国; 下衣・スカート (図8)

[形状, プリーツ構成]

ベルト1cm幅。スカート10.5cm, 34cm, 5cm, 14.5cm幅の布を横に4段縫い合わせたティアードの巻きスカート。スカート丈64cm, ベルト幅1cm, 総丈65cm, 裾幅563cmはプリーツが寄せられ85cmに縮められる。プリーツ数はウエストで237本, 2段目475本, 3段目233本で, 1段目のプリーツ1本に2段目は2本のプリーツをだかせるが6cm下で交互

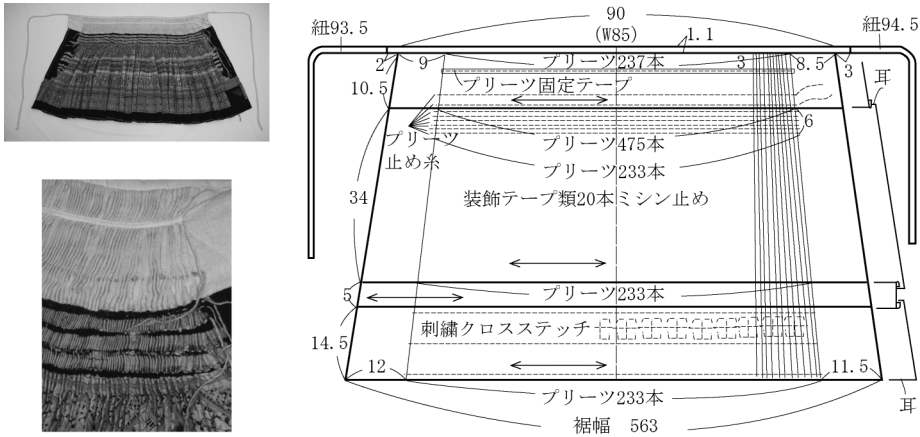
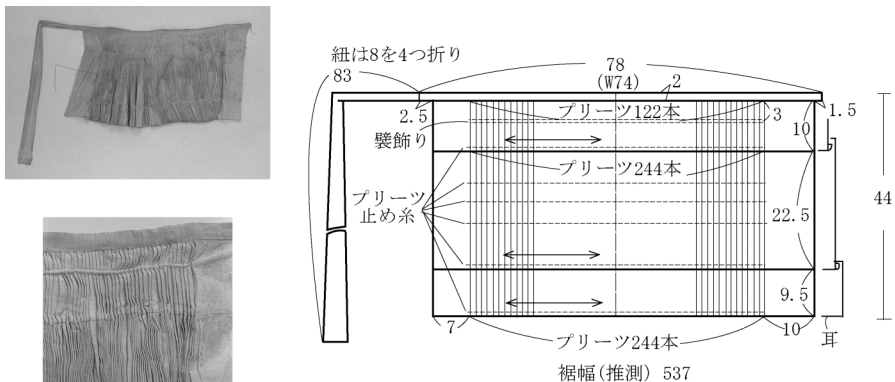


図8 資料8 中国 (個人所有)



所蔵)

にヒダを消し元の数に戻している。2, 3 段目には赤, 黄, 青の原色の20本ものテープがのせられ, 裾には赤系の刺繍が華やかな婚礼衣裳である。(個人所有)

[縫製方法, 装飾技法]

装飾のクロスステッチ, プリーツ止め縫いは手縫い。その他はミシン縫い。2 段目のダブルプリーツは交互にヒダを倒し重ねる方法である。

装飾の20本ものテープ類は山あいの自然に溶け込む藍染の色に反対色, 原色を配することで, 華やかさをプラスする。

(9) 資料9 ラオス; 下衣・スカート (図9)

[形状, プリーツ構成]

ベルト 2 cm 幅。スカート 10 cm, 22.5 cm, 9.5 cm 幅の布を横に3段縫い合わせたティアードの巻きスカート。スカート丈 42 cm, ベルト幅 2 cm, 総丈 44 cm, 裾幅 (推測) 537 cm はプリーツが寄せられ 74 cm に縮められる。プリーツ数はウエストで122本, 2 段目 244本, 3 段目 244本で, 1 段目のプリーツ 1 本に 2 段目は 2 本のプリーツをだかせる。ベルト布の右のみ 83 cm の紐が付く, 製作途中の資料である。生成りのため, しみ, 汚れが目立つ。

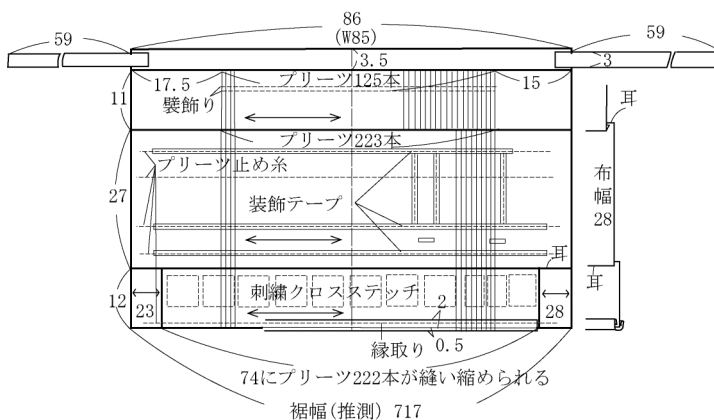


図10 資料10 タイ, 縫い縮め状態 (文化学園服飾博物館所蔵)

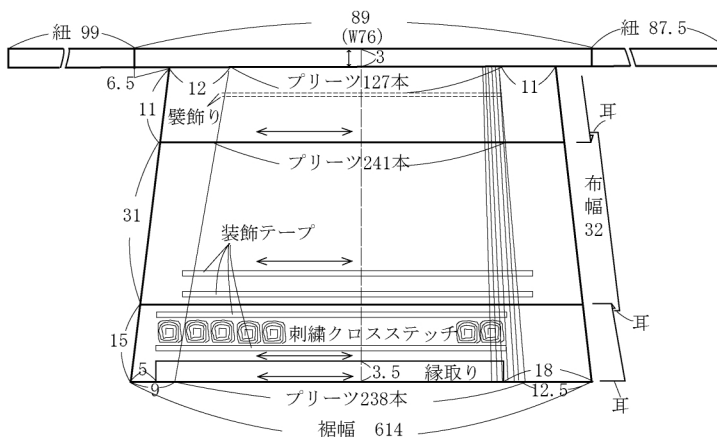
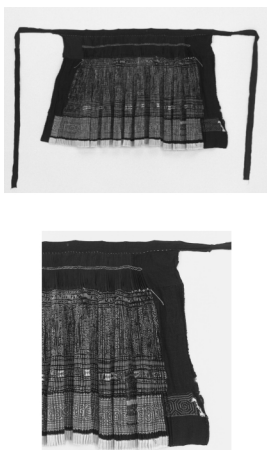


図11 資料11 タイ (文化学園服飾博物館所蔵)

[縫製方法, 装飾技法]

全て手縫い。2段目のダブルプリーツは交互にヒダを倒し重ねる方法で、白糸2本取りの並縫いで縫い合わされている。左右の裁ち目は1折りし裁ち目かがり。ウエストはヒダ部分を芯にしてベルト布でくるみ2cm幅に仕上げられている。プリーツ止めが6本縫われ、糸を引き、縮められた状態の製作途中の資料である。

装飾はベルト付け位置より3cm下の襷飾り。

(10) 資料10 タイ; 下衣・スカート (図10)

[形状, プリーツ構成]

ベルト3.5cm幅。スカート11cm, 27cm, 12cm幅の布を横に3段縫い合わせたティアードの巻きスカート。スカート丈50cm, ベルト幅3.5cm, 総丈53.5cm, 裾幅(推測)717cmはプリーツが寄せられ85cmに縮められる。プリーツ数はウエストで125本, 2段目223本, 3段目222本で, 1段目のプリーツ1本に2段目は2本のプリーツをだかせダブルプリーツの構成である。

[縫製方法, 装飾技法]

装飾の襷飾りと刺繍及びプリーツ止め縫いは手縫い。その他はミシン縫いである。2段目のダブルプリーツは交互にヒダを倒し重ねる方法で縫い合わされ縫い代は上に片返し。2段目と

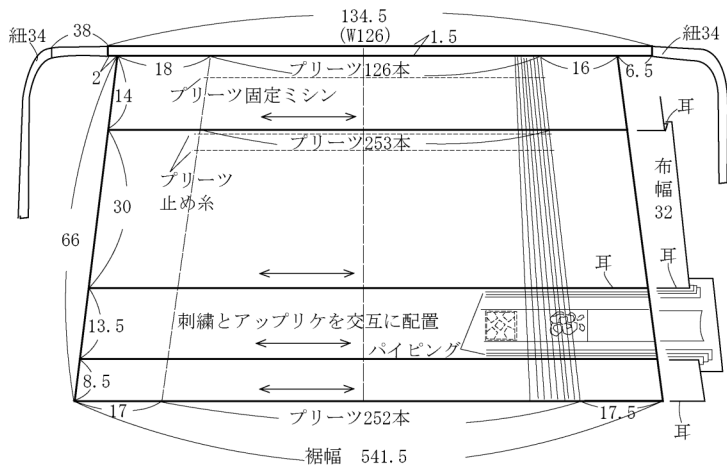
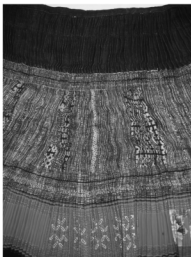
3段目は耳を利用し1.5cm重ねてミシン止め。ベルト布はスカート布をはさみステッチミシンで止める。

装飾は襷飾り, 黒地に撚りの甘い白糸を使用, 遠めからも目立つ。2段目のろうけつ染, その柄に添わせ赤い布テープが3本ミシン止めされる。濃紺の地味なスカートが明るくなる, 襷飾りとプリーツ止め5本とでプリーツは縫い縮められた状態のためヒダに隠れた縦方向のテープは見えないが縦のテープ27本, 小さな8cmのテープ14本がミシン止めされている。3段目中のクロスステッチの刺繍は幅9cm長さ666cmに基布が見えない状態にステッチが刺される。裾は表側2cm裏側0.7cm幅で白布の縁取りがされ, 2本のミシンで止められる。装飾によりスカートが彩色されている。プリーツ止め糸がはずされた状態を見たい1点である。

(11) 資料11 タイ; 下衣・スカート (図11)

[形状, プリーツ構成]

ベルト3cm幅。スカート11cm, 31cm, 15cm幅の布を横に3段縫い合わせたティアードの巻きスカート。スカート丈57cm, ベルト幅3cm, 総丈60cm, 裾幅614cmはプリーツが寄せられ76cmに縮められる。プリーツ数は



ウエストで127本，2段目241本，3段目238本で，1段目のプリーツ1本に2段目は2本のプリーツをだかせダブルプリーツの構成である。

[縫製方法，装飾技法]

全て手縫いである。1段目の縦接ぎは並縫い，2，3段目の縦接ぎは巻縫い。2段目のダブルプリーツは1つ飛ばしにヒダを外し縫い合わされる方法，並縫いで縫い代は上に片返す。2段目と3段目は0.5 cmの針目で並縫いで縫い合わせ。縫代は下に片返す。ベルト布表面とスカート裏面を合わせ並縫いでベルト付け。スカート表側でベルト布幅を整え，立てまつりで止める。右前に縦14 cm横24 cmの大きな補綴が見られる。刺繍の位置であるが，同類の別布を当てている。各所に擦り切れ，破損がある。長年大切に着用されたのだろうと推察する。

装飾は襷飾り，黒地に白糸を使用，遠めからも目立つ。2段目のろうけつ染，その柄に添わせ赤い布テープが裾に平行に2本，14 cmから20 cmの白い布テープが8本アップリケの要領で止められる。白い布テープには，赤と黒の1辺1 cmのダイア型布が止められる。根気のいる作業である。3段目は刺繍の上下に赤いテープがアップリケされ，刺繍は渦巻き文である。ピンクの糸から刺す過程が残っている。裾は白地で縁取りされる。スカート布の裏面側に縁取り布が並縫いでとめられ，表側に返し3.5 cm幅に整え，ローズ色の刺繍糸でラインステッチ

(本返し縫い)にて丁寧に止められる。濃紺の地味なスカートが明るく華やかになる。

(12) 資料12 ベトナム；下衣・スカート (図12)

[形状，プリーツ構成]

ベルト1.5 cm幅。スカート14 cm，30 cm，13.5 cm，8.5 cm幅の布を横に4段縫い合わせたティアードの巻きスカート。スカート丈68 cm，ベルト幅1.5 cm，総丈69.5 cm，裾幅541.5 cmはプリーツが寄せられ126 cmに縮められる。プリーツ数はウエストで126本，2段目253本，裾252本で，1段目のプリーツ1本に2段目は2本のプリーツをだかせダブルプリーツの構成である。

[縫製方法，装飾技法]

スカート1，2段の縫い合わせ，プリーツ止め，刺繍は手縫い。他はミシン縫いである。2段目のダブルプリーツは1つ飛ばしにヒダを倒し重ねて縫い合わされる方法，上下布共に耳で0.5 cmの縫代を巻縫いした後，のりで硬く固定し，縫い代は上側に片返す。

装飾は3段目に花柄のアップリケ布6枚と花文の刺繍5面とが交互に配置される。刺繍は11 cm幅，541.5 cm長に6枚のアップリケ布を除いた全面に刺される。刺繍をはさむ形で上下に赤，青，赤の3本をセットし2組のパイピングがミシン止めされる。藍染，ろうけつ染，赤の装飾，濃紺がバランス良く配置されて

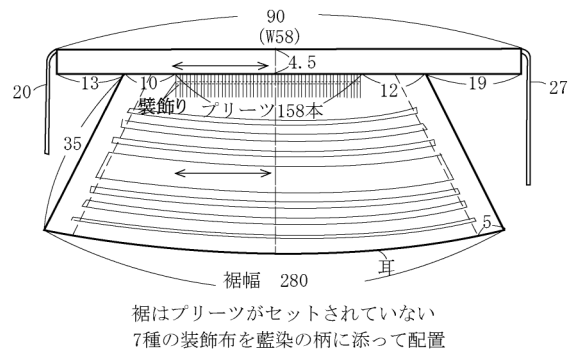


図13 資料13 ベトナム，女児用 (文化学園服飾博物館所蔵)

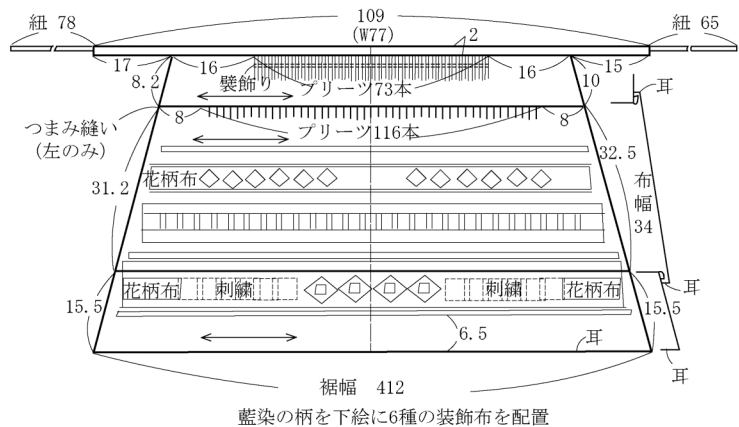


図14 資料14 ベトナム (文化学園服飾博物館所蔵)

いる。確かな審美性を感じさせる。

(13) 資料13 ベトナム；下衣・スカート (図13)

[形状, プリーツ構成]

ベルト幅 4.5 cm。スカート丈 35 cm の巻きスカート。総丈 39.5 cm, 裾幅 280 cm はプリーツが寄せられ 58 cm に縮められる。プリーツ数はウエストで 158 本である。裾はプリーツがセットされていない。ろうけつ染の柄にそって, 7 種の装飾布が止められることで, 横張りが増し, 裾広りのシルエットを形作る。

[縫製方法, 装飾技法]

ベルト付け, 装飾布テープ付けはミシン縫い。装飾布の付けは手縫い。装飾のアップリケは四角布で柄を構成する。

(14) 資料14 ベトナム；下衣・スカート (図14)

[形状, プリーツ構成]

ベルト 2 cm 幅。スカート 10 cm, 32.5 cm, 15.5 cm 幅の布を横に 3 段縫い合わせたティアードの巻きスカート。スカート丈 58 cm, ベルト幅 2 cm, 総丈 60 cm, 裾幅 412 cm はプリーツが寄せられ 77 cm に縮められる。プリーツ数はウエストで 73 本, 2 段目 116 本である。裾はプリーツがセットされていない。ろうけつ染の柄にそって, 6 種の装飾布が止められることで, 横張りが増し, 裾広りのシレッ

トを形作る。

[縫製方法, 装飾技法]

スカート横の縫い合わせ, 装飾布テープ付けはミシン縫い。装飾布の付けは手縫い。アップリケは手縫い。アップリケの一辺 1 cm 前後の三角布, 四角布は細かな針目でまつられる。

3 ボディー・着装による観察

資料1はコーティングされた張りのある布地にクリスタルプリーツが立っている。着装でのスカート丈は 45 cm で短く, 脇での広がりやや出るバランスの良いシルエットである。ウエストで 17 cm, 裾では 23 cm 前があき, 歩行し易い。シンプルで新しさを感じさせる。

資料2はコーティング加工により硬く張りがあり自然な A ラインのシルエットになる。刺繍位置はスカートを 2 分する位置で斬新である。ベルトが帯のように硬く, 着せ付けで和のイメージも感じられた。前での重なりはウエストで 26 cm, 裾で 38 cm ある。

資料3もコーティング加工が施され張りがある。プリーツのセット性がよく, 裾に平行に縦布目の布を付け, 横張りを持たせることで裾広りのシルエットを保つ。前での重なりウエスト 14 cm 裾 30 cm。ベルト付けで臀部突出点直上のヒダを左右とも 3 本広げることで, スカートを体に添わせる。



資料 2 中国



資料 4 中国



資料 5 中国



資料 6 中国



資料 8 中国



資料 10 タイ



資料 11 タイ



資料 12 ベトナム



資料 14 ベトナム

図15 装飾

資料4はフォルチュニープリーツを思わせるエレガントなシルエット。裾に止めた2種の装飾布が横張りを加え、マーメイドラインを形作る。着用感も良く歩行で裾がよく揺れる(筆者所有)。

資料5は厚手の胴布が幅34cmと広いため内側へ2つ折りにして着装させた。スカート丈は56cmとなった。量感のある布は裾広がり着装される。スカート2段目のろうけつ染の色味と、上下に配された赤のパイピングラインが効果的である。

資料6は長い織紐が付き着装でウエストを4周した。スカート丈40cm、たっぷりの裾幅と硬く張りのある刺繍布が裾ラインを華やかにする。

資料7はウエスト寸法が105cmと大きく着装で42cm重なる。スカート丈60cm、裾幅601cm重量1156.3gでかなり量感がある。赤の刺繍の分量、配置共にバランスがとても良い。

資料8は婚礼衣装として製作されたもの。スカート2段目ろうけつ染布には赤、黄、青、ピンクのテープが20本も配置され、3段目、4段目の赤の分量を含めると、とても華やかである。ウエストからHLまでプリーツ止めでしっかり固定され体にそう。HLから裾にかけ、かなり広がる。着用してみると腰へのなじみが良く、着くずれしにくい。(個人所有)

資料9及び10はプリーツ止めでヒダが固定されているため着装による観察から外した。

資料11はプリーツ止めがMHLの寸法を固定しており、ボディーにはややサイズが不足している。実際の着装ではプリーツ止めは適宜解かれる。スカート丈58cm、裾幅614cmとやや多いがセミタイトシルエットに落ち着いている。

資料12は下の布ほど厚さを増し3段目には刺繍と大きな布がアップリケされることで張りが増し、広がる。調査資料中1番重く、着用し動作が加わると重みで下がる。(筆者所有)

資料13は女兒用である。2重、3重になった7種の装飾布が横縞を構成し、量感と張りは裾

を広げ、横からのシルエットは、後ろに張り出して、可憐である。

資料14は刺繍とアップリケが重ねられた広幅の装飾布等6種が止め付けられ、釣鐘状のシルエットになっている。

殆どの資料のシルエットは歩行し易いAラインで、日常の下肢運動に機能的に対応する。

Ⅳ ま と め

文化学園服飾博物館所蔵の実物資料アジア4カ国の民族服の調査研究より次の結果を得た。

①素材

苗族のプリーツスカートの素材は綿または麻が使用される。資料4の1点のみがポリエステルであった。素材は藍染を施すことで強度を増し、適度な張りはプリーツを寄せ易くする。光沢加工された素材は、機械加工のようなクリスタルプリーツがセットされている。光沢はプリーツの陰影を強調する。刺繍される素材は、厚地でしっかりした布地が使用される。刺繍が刺し易く、刺し上がりも安定する。また刺繍部分を再利用する等の点からも厚地が適する。衣服重量は軽いものは資料9ラオスの301.1g、重いものは資料12ベトナムの1362.3gであった。横接ぎのスカートは厚さの異なる素材3種から4種を使用、下の布ほど厚くなる傾向であった。

②形状、プリーツ構成

資料1から4の4点に共通する形態、特徴は縦に7枚から16枚接いで、耳に平行に細かいプリーツを寄せた総プリーツの巻きスカートである。資料5から12、資料14の9点は横方向に2段から4段接いだティアードの巻きスカートである。資料7から12の6点はスカート2段目がダブルプリーツの構成になっており、中国、ラオス、タイ、ベトナムの4カ国共通の形態であった。

③縫製方法、装飾技法

縫製は資料1から3、資料6、資料9、資料11の6点が全て手縫い、資料8、資料12の2

点が殆どミシン縫いであった。スカート1段目のプリーツ1本に、2段目はダブルプリーツに構成する方法は2段目のヒダを1つおきに倒し重ねる。または1つおきにヒダを縫いはずしながら1段目と縫い合わせ2つの方法が見られた。ヒダを縫いはずせば縫い合わせ布は2枚となり厚地の布地に適する。縫製での智恵と工夫を確認した。

どの資料にも施されている装飾は、藍染とプリーツ加工である。藍染した後、光沢加工を施したものは資料1から3の3点であった。ろうけつ染が施されているものは資料5から8、資料10から14の9点であった。

藍染とプリーツ加工は本調査での苗族のスカートの代表的特長といえる。もう一つの特徴は刺繍とアップリケを使って藍色のスカートに彩色をする。この方法も共通する技法である。各部族は独特の文様を持ち、それぞれの装飾技術で美を表現する。この付加価値が民族服を高める。

④ボディー着装による観察

直線裁ちで平面構成された下衣スカートの機能面への工夫は素材にプリーツ加工を施したこと。形状を巻スカートにしたことである。

巻スカートは着脱がし易く、許容量が大きい。更に着装で前後にエプロン型の腰飾りを付けることで機能性と審美性を持たせている。プリーツは静止時体に添い、動作時その運動量を発揮し伸縮することで、下肢のあらゆる動作に対応する。寒さには何枚か重ね着をする。嵩高く空気をはらみ保温性にも優れる。また、正装では繁栄と富の象徴としてヒダの多いスカートを何重にも重ね着されるが、動作は拘束されない。

以上14資料の調査結果より苗族のスカートから各部族それぞれの創意、工夫及び共通する技法が確認出来た。形状は全て巻きスカートでゆとりの多い許容範囲の広いフリーサイズに出ている。プリーツ加工は布地に機能性とデザイン効果をもたらす。今回調査した全資料の縫製、装飾等から、また大きな感動を得た。貴重

な民族服に触れることが出来たことを感謝したい。

本研究の調査にご指導ご協力下さいました文化学園服飾博物館学芸室室長植木淑子氏、並びに学芸員吉村紅花氏、貴重な資料を快く御貸し下さった弓削田梢先生に深謝申し上げます。

注

- 1) 鳥丸貞恵『布の風に誘われて』西日本新聞社 1999
- 2) 鳥丸貞恵『時を織り込む人々』西日本新聞社 2001
- 3) 鳥丸貞恵『布に踊る人の手』西日本新聞社 2004
- 4) 伊藤五子、柴村恵子「中国貴州省少数民族の服飾—丹寨県の苗族について」『日本服飾学会誌』第7号、1988、PP. 48-57
- 5) 柴村恵子、伊藤五子、加藤砂織「中国貴州省少数民族の服飾—古董苗を中心として」『日本服飾学会誌』第18号、1999、PP. 63-70
- 6) 柴村恵子、加藤砂織、伊藤五子「中国貴州省少数民族の服飾—鼓社節の祭衣装を中心として」『日本服飾学会誌』第20号、2001、PP. 37-45
- 7) 長井満里子「中国少数民族服飾の製作研究—白族について」『聖母女学院短期大学研究紀要』第16集、1986、PP. 36-43
- 8) 長井満里子「中国少数民族服飾の製作研究(2)—苗族について」『聖母女学院短期大学研究紀要』第17集、1987、PP. 35-41

参 考 文 献

- 1) 伊藤五子、柴村恵子『中国貴州省の少数民族：黔東南苗族の生活と衣装』関西衣生活研究会、1991
- 2) 小川安朗『民族服飾の生態』東京書籍株式会社、1979、pp. 184-189, 284-287
- 3) 道明三保子、吉村紅花「民族服にみるスカート」『SOEN EYE』No.23、1996、pp. 52-61
- 4) 松本敏子『足でたずねた世界の民族服1』関西衣生活研究会、1979、pp. 164-175
- 5) 『アジア少数民族服飾図鑑』原野農芸博物館、(財)奄美文化財団、2002